

## 陽だまり通信

## 心地よさを支えるもの



Message

大黒屋でお過ごしいただく時間は、温泉や食事、アートだけでできているわけではありません。サロンに置かれたソファ、客室の椅子、食卓にもなるテーブル、そして湯上がりの身体を休める寝具など…。こうした“毎日触れるもの”の質が、滞在の心地よさを静かに支えていると思います。今回は家具とお布団のお話です。

## 家具がつくる、変わらない風景

館内の家具について「どの家具ですか?」と訊かれることがあります。どれも派手な装飾や目立つ機能はありませんが、「なんとなく落ち着く」「ずっと座っていたい」と感じていただけるのは、自然な質感と作り手の細やかなこだわりによるものだと思います。

大黒屋では、北の住まい設計社、オークヴィレッジ、天童木工、3CV 佐藤直利さん、作家・羽生野亜さんの家具を用途に合わせて使い分けています。たとえばサロンのオークヴィレッジの黒革の一人掛けソファや羽生野亜さんのテーブルは、リニューアル以来約 25 年使い続けているもの。木部は少しずつ艶を増し、触れるたびに愛着が湧いてきます。サロンの空気にしっとり馴染むその姿は、もはや“大黒屋の風景そのもの”と言っている存在です。

流行とは無縁で、誠実につくられ、手入れされてきたものが、時間とともに美しさを深めていく。家具は、そんな“育っていく美しさ”を教えてください。大黒屋はお部屋食が特徴です。そんな時間を静かに支えているのが、客室のテーブルと椅子。これらは那須町在住の木工家・3CV 佐藤直利さんの家具です。ぱっと見は素朴で装飾ありませんが、椅子に座ると背中がすっと落ち着き、自然に深呼吸ができるような感覚があります。

その理由は座面の“1cm”。床と平行ではなく、背もたれ側を 1cm だけ低く傾けてあるのです。このわずかな角度が長時間座っても身体の重さを一点にためず、無理のない姿勢をつくり出します。(※一部の椅子のみ) 説明されなければ気づかないほど細やかな工夫ですが、滞在されるお客様の身体に寄り添う大切な設計思想です。

テーブルと椅子は、食事ももちろん、読書やちょっとした仕事にも使える頼もしい存在です。そして佐藤さんには毎年 12 月の長期休館期間に、館内の家具のメンテナンスをお願いしています。テーブルはサンディングで古い表面を削り、オイルを丁寧に染み込ませ、木肌に息を吹き込むように整えます。輪染みや細かな傷が残ることもありますが、

それもまた大黒屋で重ねられた時間の跡＝「風合い」として大切にしています。椅子は歪み補正など細部を調整し、また一年気持ちよく使える状態に。家具は宿を訪れた人々の時間を受け止め、静かに寄り添い、記憶の一部になる存在です。だからこそ私たちは、家具と誠実に向き合い、丁寧な手入れを続けています。

## 眠りを支えるもの

家具と同じように、寝具にもこだわりがあります。私たちは長年、昭和西川のムアツ布団を採用しています。ムアツは身体を“面”ではなく“点”で支える独自構造で、体圧が自然に分散されるため寝返りがしやすく、湯上がりの身体がゆっくり休まるようにつくられています。柔らかすぎず硬すぎず、横になった瞬間に「すっと馴染む」独特の安定感があります。枕も同じムアツ枕を採用。首や頭を点で支え、重さを分散し、自然な寝姿勢を保ちやすいのが特徴です。一晩を通して負担が少なく、起きたときに首や肩が軽く感じられる方も多くいらつやいます。布団と枕、どちらも「変わらない心地よさ」を大切に選択です。“最新型”や“低反発”といった流行はありますが、大黒屋がムアツを選び続ける理由はとてもシンプル。何年経っても安心して身体を預けられ、変わらない心地よさがあるからです。布団も枕も、家具と同じく「誠実なつくり」と「長く使える信頼感」を大切にしています。定期的な入れ替えやメンテナンス、カバー類の管理もすべて、“変わらない良さ”を守るためのものです。華美なものや最新の機能ではなく、毎日触れるものの確かな心地よさ。年月とともに育つ素材の風合い。作り手のこだわりが宿る誠実なものづくり。家具も布団も枕も、「変わらない良さ」を静かに積み重ねていく存在です。説明しなくても伝わる安心感。理由を語らずともふと“落ち着く”と感じる空気。なんとも言えない心地よさは、そんな小さな誠実さの積み重ねでできていくのかと思っています。

Newspaper  
January-June, 2026

Exhibition

JUN. 04-29  
古美術と金工  
うまのほね・鎌田奈穂展

APR. 29-MAY. 31  
現代美術  
田幡浩一展

APR. 03-26  
現代美術  
五月女 哲平展

MAR. 07-30  
本・印刷物  
Ephemera 展

FEB. 06-MAR. 02  
絵画  
渡辺 豊重展

JAN. 16-FEB. 02  
コレクション展 & 掘り出し市

展覧会

## Event 行事

## 桜の開花

大黒屋周辺の桜の見頃は 4 月上旬から中旬頃と言われております。川沿いに並ぶソメイヨシノはもちろん、梅の館前に広がる枝垂れ桜は圧巻の景色を見せてくれます。種類によって時期が異なる分、通常より長く楽しむことができる大黒屋の桜を是非ご覧ください。

Music

音を楽しむ会 毎月 26 日

6	5	4	3	2	1
水無月 — 新村 隆慶 (ヴァイオリン)	皐月 — 黒川 正三 (チェロ)	卯月 — 宮坂 遼太郎 (パーカッション)	弥生 — 福原 寛 (笛)	如月 — 上原 正敏 (テノール)	睦月 — 休演

今回で 3 回目のご出演。ヴァイオリン一本から紡がれる音は弦楽器の枠を越え、一つの環境音として、聞こえてきます。様々な楽器に触れてきたからこそ、ヴァイオリンの可能性を拓ける演奏は、音の実験のようにも感じられます。

1991 年から 2015 年まで東京フィルで首席を務め、近年はさまざまな室内楽の他、声楽を加えた宗教曲などを独自のスタイルで企画、演奏を行っています。黒川さんのあたたかく、深みのある演奏をお楽しみください。

初出演、打楽器を中心に、ソロ、バンド、即興など幅広いフィールドで活動。素材や空間と丁寧に向き合うように紡がれる音は、リズムの力強さの中で多様な質感の、打音が重なり合い、豊かな表情を生み出します。

歌舞伎や日本舞踊会などの古典音楽を中心に、インドバンスリやサムルノリといった世界の伝統楽器とコラボすることもある福原さん。春先に様々な生命が息吹き始めることを祝うかの如く、流麗で優雅な音色をお楽しみください。

上原さんのテノールは味わい深さだけではなく、艶やかさも有り、より一層心に染みわたるものがあります。歌声だけではなく軽快な MC も楽しみの一つ。2 月の雪景色の中、心温まる歌声を是非お楽しみください。

## 《休館日の取り組みについて》

大黒屋では、2019 年から本格的に休館日を導入しました。当時は旅館で定期的に休館日を設定することは珍しい取り組みでしたが、近年は同様の仕組みを採り入れる宿も増えてきたように感じています。現在は、年間 60 日前後の休館日を設定しています。上半期は隔週、下半期は月末または月初に休館日を置くスタイルが定着し、12 月には長めの休館期間をいただくことが多くなりました。休館日の設定は時期により異なりますが、

平日の火曜・水曜・木曜を中心に調整しています。休館日があることで、<スタッフの休養><館内メンテナンス><会議の充実>など、運営面・サービス面の双方で多くのメリットがあります。一方で、ご来館予定が休館日と重なってしまうお客様には、ご不便をおかけすることもございます。休館日はホームページおよび予約サイトにてご確認ください。ご理解のほど、よろしくお願い申し上げます。

板室温泉 大黒屋  
Itamuro Onsen Daikokuya

大黒屋「陽だまり通信」は年 2 回発行しています。

板室温泉大黒屋

〒325-0111 栃木県那須塩原市板室 856 番地  
E-mail: onsen@itamuro-daikokuya.com

ご予約 HP からご予約いただけます。

TEL 0287-69-0226

FAX 0287-69-0497

www.itamuro-daikokuya.com

## 1月

コレクション展 & 掘り出し市  
January 16-February 02

大黒屋コレクションの中から、今後展示予定の作家さんの作品をはじめ、美術・工芸の品々を展示します。併せて、毎回ご好評をいただいている「掘り出し市」も久しぶりに開催し、さまざまなおみやげや日用品、布や生地などを出品予定です。

01 木 元旦
02 金
03 土
04 日
05 月 お餅つきの日
06 火
07 水
08 木
09 金
10 土
11 日 加山幹子展 最終日
12 月 成人の日
13 火
14 水
15 木
16 金 コレクション展&掘り出し市 初日
17 土
18 日
19 月
20 火
21 水
22 木
23 金
24 土
25 日
26 月
27 火
28 水
29 木
30 金
31 土

## 2月

絵画  
渡辺 豊重 展  
February 06-March 02

2023年に逝去した渡辺豊重さんの版画を中心に展示します。鮮やかな色彩と独特のリズム、ユーモアをもつ表現で、油彩・版画・彫刻など多彩な媒体を通し、「生きること」の歓喜と哀愁を描き続けた作家の仕事を振り返ります。

01 日
02 月 コレクション展&掘り出し市 最終日
03 火
04 水
05 木
06 金 渡辺豊重展 初日
07 土
08 日
09 月
10 火
11 水 建国記念の日
12 木
13 金
14 土
15 日
16 月
17 火
18 水
19 木
20 金
21 土
22 日
23 月 天皇誕生日
24 火
25 水
26 木 音を楽しむ会
27 金
28 土

## 3月

本・印刷物  
Ephemera 展  
March 07-30

アートブックディストリビューター・twelvebooks代表の濱中敦史氏による企画展。展覧会案内状、パンフレットやポスターなど「儚いもの=エフェメラ」とされる印刷物を中心に、それらをまとめた書籍や濱中さんの収集物も展示し、印刷物が持つ一瞬の魅力と記録性を紹介します。

01 日
02 月 渡辺豊重展 最終日
03 火
04 水
05 木
06 金
07 土 Ephemera 展 初日
08 日
09 月
10 火
11 水
12 木
13 金
14 土
15 日
16 月
17 火
18 水
19 木
20 金 春分の日
21 土
22 日
23 月
24 火
25 水
26 木 音を楽しむ会
27 金
28 土
29 日
30 月 Ephemera 展 最終日
31 火

## 4月

現代美術  
五月女 哲平 展  
April 03-26

五月女さんは、身近な風景や人物の形を手がかりに、色面を重ねて静かな画面をつくる画家です。立体から絵画へと表現を広げ、色や形をそぎ落とした構成へ移行しイメージが立ち上がる瞬間を丁寧にみつめてきました。変形キャンバスや異素材を扱う試みも特徴です。

01 水
02 木
03 金 五月女哲平展 初日
04 土
05 日 お餅つきの日
06 月
07 火
08 水
09 木
10 金
11 土
12 日
13 月
14 火
15 水
16 木
17 金
18 土
19 日
20 月
21 火
22 水
23 木
24 金
25 土
26 日 音を楽しむ会 / 五月女哲平展 最終日
27 月
28 火
29 水 昭和の日 / 田幡浩一展 初日
30 木
31 火

## 5月

現代美術  
田幡 浩一 展  
April 29-May.31

田幡さんは、絵画やドローイングを軸に、モチーフが“少しずつ変わる様子”や“ずれて見える感覚”をテーマに制作する作家です。複数の支持体をずらして配置したり、形の分解・再構成を用いることで、像が揺れる瞬間や時間の流れを感じさせる表現を生み出してきました。

01 金
02 土
03 日 憲法記念日
04 月 みどりの日
05 火 こどもの日 / お餅つきの日
06 水 振替休日
07 木
08 金
09 土
10 日
11 月
12 火
13 水
14 木
15 金
16 土
17 日
18 月
19 火
20 水
21 木
22 金
23 土
24 日
25 月
26 火 音を楽しむ会
27 水
28 木
29 金
30 土
31 日 田幡浩一展 最終日

## 6月

古美術と金工  
うまのほね・鎌田奈穂 展  
June 04-29

古美術商「うまのほね」を営む鎌田充浩さんと、金工家の鎌田奈穂さんによる、古美術と金工の二人展。古いものの美に惹かれるお二人が、充浩さんによる古美術のセレクトと、奈穂さんが手がける銀のうつわ、酒盃やお盆などを作品を展示いたします。

01 月
02 火
03 水
04 木 うまのほね・鎌田奈穂展 初日
05 金 お餅つきの日
06 土
07 日
08 月
09 火
10 水
11 木
12 金
13 土
14 日
15 月
16 火
17 水
18 木
19 金
20 土
21 日
22 月
23 火
24 水
25 木
26 金 音を楽しむ会
27 土
28 日
29 月 うまのほね・鎌田奈穂展 最終日
30 火
31 水